

二大震災 がんばろう

マンション問題総合研究所  
理事長 喜田 大三

はじめに

私は、関西生まれですが、地震・雷・火事・親父と教えられました。怖いトップに地震、88年前の関東大震災が話題になります。大震災の5年後に生まれ、少年時代から地震にいつも備えてきました。何かの因縁でしょう。16年前に西で、本年は東で甚大な被害をだした巨大地震が発生。西の阪神へは、地震4日後に行き貴重な体験をしました。東北では、巨大津波に耐え一本だけ残った希望の松、その街の復興に注目しています。

◎阪神・淡路大震災

1995年1月17日午前5時46分、震源：淡路島北部、深さ16km、マグニチュード7.2、死者：6千4百余名、家屋：全半壊（焼）約47万世帯、その他：略  
早朝、西宮市の次男から埼玉へ大地震の電話がかかってきました。関西へ行き、六十

七才になり初めて、直下型地震のゆれと地盤液化の破壊力のすごさを知りました。そして、神戸の全壊した家屋のがれき撤去を支援しました。後日、ゼネコンの研究所の振動台で阪神地震のはげしいゆれを体感しました。

地震当日、多くの方が寝床におられた。突然、すごいゆれで木造家屋がたおれ、亡くなられた。故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

マンション地盤の液化対策

地震4日後に、JRは甲子園口まで開通。国道2号線を、西へ西へと約3km歩く。バイクにのった若者たちが次々おいこしていきます。

わが家の賃貸マンションは、事前に大丈夫と書いていたが、途中で一階部分が壊れ傾いたマンションを見ると気になる。

わが家のある西宮の町内は、東西の活断層にも近い沿岸部で、砂地盤は液化して道路の一部に砂が噴出しています。

震災から丁度50年前の終戦の夏、阪神大空襲で焼け野原になった。何年かのち、やっ

と建てた木造の家々が地震で全壊していました。本当に、むなしく悲しい。

町内のご高齢の皆様にお見舞いを申しあげたら、逆にお礼をいわれました。わが家は、地震の5年前に古い木造の貸し住宅・店舗を鉄筋コンクリートの賃貸マンションに

建替え、大丈夫でした。次男の家族が住んでおり、町内の荷物をおろしてました。マンションは五階建て2棟です。南棟は一階に駐車場、その上に住宅7戸、北棟は住宅9戸。両棟は半階上がりの階段でつながり、階段は周期の違う両棟が激しくゆれても脱落しないように特殊金具でとめられています。

問題は二面壁で柱だけの南棟一階の駐車場でしたが、大丈夫でした。建物の耐震性に費用をかけた効果だけではないと思われました。敷地内の砂地盤をセメントで液化化しないように処理。保険のつもりで費用をかけました。効果が

早々にあったようです。震度7のゆれと砂地盤の液状流動で、近くのマンション

は傾き、ビルの地下室は立ち入り禁止。南方に見える阪神高速道の高架は落下し、さらに西方で倒れており、甚大な被害の象徴としてTVで報道されていきました。

被災した商店と周辺の復興

西宮から自転車、住宅が全壊している街中を西に5km抜けて、神戸東灘区へ往復。4日間、がれき（災害廃棄物）撤去を応援しました。

従兄弟のM家は、倒れた阪神高速道高架に近い。二階建て木造住宅や精米所のある米・酒などの商店は無残にも全壊しており、大量のがれきの山になっていました。

七十過ぎのM達と話しあいました。『Mの亡き親（私の伯父）が、（震災から）50年前の終戦の夏、大空襲で店や住宅を焼失。仮設の店で商売を続け、食糧不足の時代に商売は繁盛し、店を再建した』こと、今後のことなど。

Mや息子の家族、店員も、食品店の商売を早くはじめた

いと発言。私はがれき撤去を担当しました。

世紀を超えて 快適サポート

 建装工業株式会社

首都圏マンションリニューアル事業部  
〒105-0003 東京都港区西新橋 3-11-1  
TEL03-3433-0503 FAX03-3433-0535  
URL : http://WWW.KENSO.CO.JP

～ Totalでご提案します ～

大規模修繕工事から設備改修工事、内装リフォーム充実したアフターメンテナンス体制で培った信頼が世代を超えた永いお付き合いを実現しています。



- 大規模修繕工事
- 給排水設備工事
- 各種防水工事
- 防音工事
- 内装工事
- 建物・設備診断



JQA-QM6964



JQA-EM6433

「首都圏マンションリニューアル事業部」

東北支店 千葉支店 横浜支店 中部支店 関西支店 札幌営業所 福岡営業所

『復旧・復興の第一歩は

がれきの撤去 がんばろう』

震災6日後、町内のがれきは放置されたまま。Mの敷地に、隣の家がたおれこみ、隣の老夫婦は、がれき撤去の費用を心配していました。

そこで、自転車で区役所へ行き、費用負担を相談、公費援助を検討中でした。一方、西宮のマンションを施工したゼネコンへ連絡。下請けの解体処理業者を紹介されました。

震災7日後、公費でがれき撤去ができるようになると確認。翌日から、処理業者が本格的な重機をもちこみ作業を開始。その夕方、社用のため新幹線で東京に帰りました。

2月中旬に、神戸のM宅を訪問。仮設店舗で商売を始めており、みんなの笑顔を見て非常に嬉しくなりました。

処理業者も仮事務所、Mの紹介で、この地域のがれき撤去に頑張っていました。

2年後に、Mは鉄骨三階建の店と住まいを新築。その後、私鉄の駅近くには、賃貸や分譲のマンションが建設され、いち早く復興していました。

◎東日本大震災

巨大な東北地方太平洋地震、2011年3月11日午後2時46分、宮城県沖130km、深さ24km、その他複数の震源域が連動してM9の巨大地震。プレート境界のずれの震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北500km、東西200kmに広がる。震度は、7から6強です。

はげしいゆれ、地盤の液状化、特に巨大な津波によって、被害は極めて大きくなった。

6月上旬の死者・行方不明者2万3千余名、住戸全壊8万3千余戸。がれき約2千5百万トン、阪神震災の1・7倍。お悔やみとお見舞いを申しあげます。

巨大津波に耐えた希望の松

3月12日以後、TVでは10m余の巨大津波が防潮堤をこえ街をこわす威力を連日放送。残ったコンクリート三階の窓に波が運んできた各種の破砕物がぶらさがっています。

また、岩手県リアス式海岸の山肌を調査した結果、巨大津波は海拔37・9mもの高さ

に達しています。

4月発売の『震災前後』の空中写真真集で、岩手県陸前高田市に注目。広田湾に面した「高田松原」は、日本百景、国の名勝に指定。弓なりの砂浜約2kmに約7万本の松。約3百年前に農作物を塩害から守るために植林。年間百万人の観光客。この松原も全滅か。いいえ、一本の松が津波に耐え、復興のシンボル希望の松になっていきます。

巨大津波が襲いかかる動画をネットでみました。人口2万人以上住んでいる平地の街は壊滅。わずかにコンクリート建物・構築物が残っている。その調査は復旧・復興時のヒントになるでしょう。

死者・行方不明者は約一割と多い。5月、全滅した街を望む高台のリング園には死者を吊って白い花が満開でした。

復興をめざすお二人

このように陸前高田市は松原はじめ市民や街並や職などを失った。また、役所も被災し、5月16日にプレハブ二階建ての第一仮庁舎を完成。

戸羽大市長は『新しい復興にむかっの第一歩。私たちがながい道のりをたたかう』

なお、同市は4月に被災自治体で一番早く避難者の仮設住宅36戸を建設しました。

また、戸羽市長は、5月15日の民放TVで、『規制を緩和してもらい、皆様から認められる復興特区をめざす』と抱負を話していました。

陸前高田市では、郷里の味を守る企業が被災。その一例、創業200年以上の調味料・醤油の老舗八木澤商店を紹介します。

製品は日本だけでなく世界でも愛用。震災で蔵は全滅したが、流された大きな杉桶から蔵酵母を採取できた。醤油ファンから連日のように前払いのお金と復活一番の醤油を待つとエールの手紙。

河野通洋社長は、4月1日に新任挨拶。『変えていかな

い心の静けさと変えていく勇氣をもって、再建します。だから、社員は解雇しない。会社も町も復興しましょう』と抱負を語った。

希望の松 『復興がんばろう』

マンションの大規模修繕工事、**“瑕疵”への備えはありますか？**

大規模修繕工事の『**瑕疵保険**』なら...



国土交通大臣指定 住宅瑕疵担保責任保険法人

**株式会社 住宅あんしん保証**

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-6-6 八重洲センタービル 7F

**TEL:03-3516-8008 FAX:03-3516-6332**

までお問合せください！

住宅あんしん

検索

